

平成28年度 第1回 茨木市文化芸術推進市民会議 (結果レポート)

日時：平成28年8月23日(火)
午後6時30分～午後8時30分
場所：市役所南館8階 中会議室

1 目的

この市民会議は、文化振興ビジョンの推進に当たり、市民、文化芸術関係団体、大学、商工会議所、観光協会、文化振興財団から、市の文化振興に関する様々な意見やアイデアを得て、今後の文化施策の参考とするとともに、市民及び関係団体等の連携・交流を図ることを目的としています。

2 参加者・参加団体（22人）

公募市民（2人）、日本盆栽協会茨木支部、茨木三曲協会、茨木市舞踊協会、茨木市合唱連盟（2人）、茨木写真研究会、茨木市謡曲連合会、オワゾリール会、茨木市民謡民舞同好連盟、茨木芸術中心、茨木現代美術の会、追手門学院大学、梅花女子大学、立命館大学、茨木商工会議所、（一社）茨木市観光協会、茨木市（まち魅力発信課、社会教育振興課）、インターン（2人）

3 会議の進め方

ワークショップ形式（4グループ）

4 進行役（ファシリテーター）

市民文化部文化振興課振興係長	田中
市民文化部文化振興課職員	川寄

5 会議内容

(1) 開会・昨年度の振り返り

昨年度の市民会議は、

①みなさんの交流、つながりを持つ事(第一)

②「文化振興ビジョン」を知っていただく事

③市の文化施策の参考にする事

の3つの目的を持って開催しました。

今年度は昨年度より一歩踏み込み、ビジョンを具体的に推進するための計画、事業づくりに取り組む場とします。



(2) グループ内での自己紹介

最初に緊張をほぐすため、「自己紹介シート」を使って、1分間の自己紹介を行いました。各メンバーが好き嫌いや性格などを話すにつれ、お互いの理解が深まりました。



(3)「HUB-IBARAKI ART PROJECT」 について

次代を担う若手芸術家を発掘し、発表の場を提供することで、茨木市がより発展していくことを目指した「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」のこれまでの取組を紹介しました。

3年間の作家発掘期間を経て、今年度から「HUB-IBARAKI ART PROJECT」と名称変更し、育成期間へ移行します。

初年度の特集作家である中島麦さんに、これまで制作した作品と今年度の作品を紹介いただきました。



「HUB-IBARAKI ART PROJECT」特集作家 中島 麦 / Mugi NAKAJIMA 茨木市在住

絵を描く事を中心に、拡張する出来事を取り込みながら活動中。
個展、企画展、地域アートイベント、アートフェア、ワークショップ
開催等 多数。

1978年生まれ 茨木市在住

桑田幼稚園→中津小学校→平田中学校→追手門学院高等学校
→京都市立芸術大学 美術学部油画専攻 卒業

HP: <http://mugiworks.web.fc2.com>

FB: <https://www.facebook.com/nakajimamugi.works/>

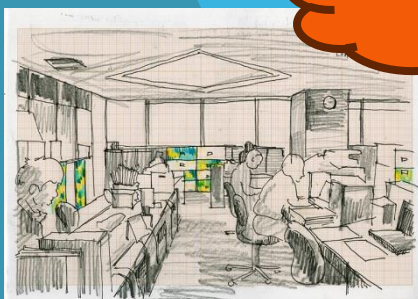
過去作品



HUB2014



HUB2016



(4) ワークショップ

先ほど中島麦さんからご説明いただいた「HUB-IBARAKI ART PROJECT」をテーマとして、ワークショップを行います。

まず、個人で

- ①「HUB-IBARAKI ART PROJECT」と所属団体の連携内容
 - ②所属団体以外で「HUB-IBARAKI ART PROJECT」と連携し、こんなことできたらおもしろいという提案
- の2点を検討しました。

続いて、個人で考えた内容をグループ内で話し合いました。



グループ内で出た意見を皆さんで共有するため、各班の代表者から発表しました。

1班



場 所

- ・「図書館分館」への作品展示
- ・麦さんの作品を追大にも！
- ・できるだけ「人の集まる」「流れる」場所に設置したい。改札の中、市役所1階、レストラン、バスロータリー、公園
- ・恒久的な作品ならまち歩きの目的にしたい
- ・ローズWAMに常設
- ・公共施設だけでなく、民間施設にも

参 加

- ・麦さんの作品にインスピレーションを受けた作品作り
- ・「音」も流れていると流れる人々の注意も引ける
- ・伝統を創造！道具の立奏台や箏爪等にも中島氏にメディウム頂き+私の演奏と中島氏の作品とのコラボ。※他の様々なコラボも歓迎。
- ・麦さん+芸術活動ジョイント
- ・完成した時にコンサートができそうです
- ・公募型参加の子供に箏や三味線を教えて創生芸術公演（音楽劇など）を美術はもちろん中島氏
- ・作品の中には「触れる」ことができるものがあれば（子供など）より身近に感じれる。

広がり

- ・私の車を邦楽を周知するアートカーにして欲しい！啓蒙の一環として
 - ・作品を前にして、いろんな人がジャンプ！パフォーマンス
 - ・SNSを利用しての他市への発信し、参加してもらう。
- ※ジャンプの画像を投稿してもらうなど



触れることができる作品を作りたい。
作品は5年程度設置し、徐々に劣化していくのも作品の歴史となっていく。
ジャンプは「HUB-IBARAKI ART PROJECT」でタグ付けして、SNSで出てきたらうれしく思う。

2班

HUB

- ・HUBの展開
- ・茨木のランドスケープ、象徴とは何か？これと関わりアートとの融合
- ・新しく生まれた立命館校舎を活用した芸術との融合



使う！

- ・中島麦さんと行くハブアート魅力発見ツアー&ワークショップ
- ・「作品とあなた」写真コンテスト
- ・FB、インスタグラム
- ・既存イベントでの発表
- ・素材の販売
- ・作品が展示されている場所のマップ
- ・スタンプラリー
- ・ふるさと寄付金アート権利

コラボ

- ・メイキング映像でPR
- ・彩都中部地区プロロジス壁面を利用したアートプロモーション
- ・福祉文化会館全館を使って茨木写真研究会会員展とコラボ
- ・製作過程の映像化
- ・場所利用者の写真
- ・同じ指向の者でなく、既存の諸団体とコラボで
- ・高校、大学の美術部とコラボ

中島さんへのお願い

- ・中島作品が独立しないように
- ・中島作品のテキストスタイルの利用
- ・中島作品のpaint以外のmediaで
- ・素材をpaintでなく、既存の作品(写真等)を使って
- ・作った段階で固定するのではなく
- ・時間を組み込みたいね 作品に

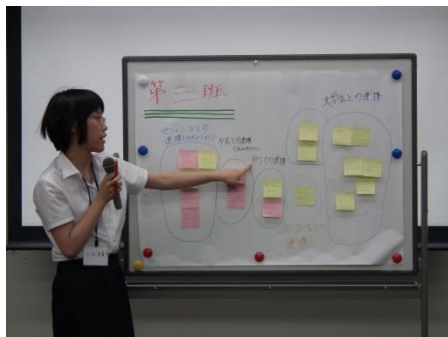
場所の展開

- ・歩道まるとアート
- ・市の施設以外の建物で発表
- ・耐震性はともかく市民会館の空間を活用したコラボ展と音楽の融合
- ・メインロードの活性化と芸術の融合
- ・商店街まるとアート
- ・商店街の活性となるような芸術の融合
- ・シャッターを利用



他のジャンルとの関わりで生まれることは必ずある。どちらかがメインというのではなく、双方のいいところを合わせた50:50の関係のコラボなら成立する。5年程度の展示であるHUBはパブリックアート(恒久設置)と一過性の展示の間に位置付けられる。絵を描くことを介して地域とつながることができるというところに可能性を感じている。

3班



市民との連携 (コミュニケーション)

- ・市民の一言メッセージを入れる
- ・茨木の馴染みある絵を描く(バラ、三島ウド、川端康成、キリシタン、いばらき童子)

他ジャンルとの連携

- ・古典を掘り出し展示する
- ・アートの中に古典の絵を入れる
- ・新しいものと古いものをコラボ
- ・展示品を置く(盆栽など)
- ・アートの前で発表

中・高生との連携

- ・中学、高校の美術部によるボランティア

大学生との連携

- ・書道部パフォーマンスとのコラボ
- ・梅花女子大学チアリーディング部レイダースとのコラボ 元気！ 勇気！ 笑顔！
- ・梅花、立命、追大の学生による連携
- ・大学生によるイベント企画
- ・学園祭や学園内のイベントがある際にART PROJECTの周知を行う
- ・学生が絵のPRを茨木市民の方に広報する
- ・スクールバスにアート
- ・教員との連携

町との連携

- ・商店街との連携
- ・茨木市内の駅や近隣の駅との連携



学生との連携は教育という形でなく、関わるなかで、なにか見つけてもらえるような連携ができればと思う。学生にしる、まちにしる、皆さんにしる、連携は私をネタにしてくれればいいと思う。双方、相互関係にあれば良い連携になる。スタッフを募集して、来てくださいという形でなく、こんなことがあるけど、どんなことができるかなという提案があると広がっていく。

4班



イベント

- ・ジャンプで記念撮影大会
- ・文化のHUBとなる場所として茨木市阪急駅前にその拠点を建設し、外からの影響をくり入れられ、交流容易となる。音楽ホールがないので、20年来会を行っている。元市民会館跡地とのプラス、マイナスをみんなで話し合う。
- ・合唱のバックに作品のスライドを流しコラボ
- ・作品が展示してある場所で合唱する(イメージが合えばベター)
- ・茨木の子どもを公募して、アートの前でテーマにそった詩や言葉の群唱パフォーマンス。子供に限らず、市民の方もあり

P R

- ・茨木ではまとまりにくい
- ・音楽と美術の近いはみえること、大部分は残されるが、音楽は時間とともにある。時代性はあるが、音楽は生きるリズムや調和などを豊かにする。促進する。
- ・場所の歴史性をPR
- ・横のつながりが薄い
- ・茨木市に関わりのあるものを使ってつくる(三島ウド、赤しそ)

アイデア

- ・接続的な拠点づくり
- ・出土品(土器)をモチーフに!
- ・音楽(耳を)軽視しがち 記憶に残る音楽
- ・精神的に豊かになる!
- ・視覚と聴覚の融合
- ・交通の便を利用
- ・歴史キーワードを題材に
- ・茨木の歴史とのコラボ、取組(茨木童子、キリシタン)

演出をもりあげる

- ・ライトアップ
- ・プロジェクションマッピング(24時間)



歴史等を入れたコラボは安易にしまうとチープになってしまう。その場所しか成立しない作品がいい。具体性をどう盛り込むかが難しい。分かり易すぎると製作する意味がなくなる。集まって伝える場や分かりやすいHPなど情報を整理することがHUBにおいて必要なことだと思う。続けていくことでしかPRできない。ここにこれだけ皆さんがいるということに広がっていく可能性を感じている。

(5) ふりかえり

ワークショップの最後に今回の市民会議についての振り返りを行いました。20人の方から回答があり、12人が「よかった」、8人が「まあまあよかった」という感想をいただきました。

主な意見は以下のとおりです。

- ・年齢も性別もバラバラの方とお話できて楽しかったです。
- ・様々なジャンルの人たちの意見が聞けたので良かった。
- ・改めて自身の活動の軸足(目標)を考えるきっかけ、刺激となった。
- ・ハブイバラキアートについて、茨木市に15年間在住しているが知らなかった。知ってもらうPRを行うことが重要。
- ・取り組み、イベント情報をより多くの人々に知ってもらう工夫。
- ・個人の積極的な意識もさることながらPR、広報も大事です。
- ・茨木市をPRできる物が少ないなと思いました。
- ・歴史や古典について考える機会となった。若い人のみの取り組みにならないように。
- ・HUB全体との関わりを茨木市の文化の発展と、市民の連携、参加につながるために何か思いきってほしいと思いました。
- ・積極的に協力してもらえる団体に集約していった具体的なプランにしていけることが必要。
- ・アート、文化のかおる場所づくり、サロンづくりが必要かなと思いました。
- ・茨木市の「文化」とは何かもっと明確化が必要。

6 さいごに

今回は、「HUB-IBARAKI ART PROJECT」との連携をテーマに学生、文化団体とのコラボや様々な場所での展開など、多くの魅力ある提案をいただきました。

また、アンケートでは、今回の参加者全員が「よかった」、「まあまあよかった」と回答いただくなど、非常に満足度が高い会議となりました。

皆さんの話し合いのなかで出てきた多くの提案のなかで所属団体と連携して事業が行えそうなものがありましたら、中島麦さんとも相談し、実現に向けて取り組みを進めていきたいと考えております。

次回以降も、この市民会議において、より交流を深めつつ文化振興ビジョンに関わるテーマを設定し、皆さんとともに茨木市の文化を大切にしながら市民の誰もが気軽に文化芸術を楽しむことができる機会を整え、「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまち」という将来像の実現に向け取り組んでいきますので、皆さんよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

